

# 駅舎改築をするなら、障がい者にやさしい駅を

10月9日から13日まで、村上議員が所属する市議会建設常任委員会が、まちづくりの先進事例の研究のため、大分県中津市、福岡県北九州市、同福岡市の三箇所を行政視察しました。その内容をお知らせします。



中津市では、企業誘致と城下町の風情を生かしたまちづくり、北九州市では勝山公園の再整備、紫川のリバーサイド整備について、視察しました。

一番釧路市に参考となると思えたのは、福岡市の地下鉄のバリアフリーの取り組みでした。天神地区の地下鉄駅を見て回りましたが、点字ブロックだけではなく、視覚障がい者のための音声放送、点字による料金表の設置、車椅子でも十分通れる広さを確保した改札口や、ホームまで直接いけるエレベーターなど、随所に工夫が施されていました。釧路市は、鉄道高架や駅舎橋上化などを検討中ですが、両案とも採用せず、むしろ障がい者にやさしい駅づくりこそ行わねばならないでしょう。



ステーション市民サービスセンターが活用されている。紫川に浮かぶ市民サービスセンターが活用されている。



中津市では、昔ながらの街並みを残すために補助金制度を作っています。

## 日本製紙・王子製紙のばい煙問題で 共産党国会調査団が立ち入り調査



九月議会の一般質問で村上議員が取り上げた製紙工場の違法ばい煙の問題に関して、10月9日、党国会調査団が、両工場の立ち入り調査を行いました。この調査団には、紙智子参議、真下紀子道議、はたやま和也党道政策委員長、市田書記局長秘書、梅津則行市議などが参加しました。（村上議員は視察のため参加できません）紙さんは、「違反がわかった時点で報告し、適切な指導を受けるべきだ。誰が指示して改ざんが行われたのか明らかにされておらず、問題点が残っている」と指摘しています。

一連の調査のうち、大楽毛西会館では党国会調査団と周辺住民との懇談会も行われました。こうした調査や地域住民の声をもち、国会では市田書記局長が追及をしていく予定です。とくに、北海道や市などが、「ゆゆしき問題だが、人体には影響もないので、強力な行政命令は出せない」との消極的な姿勢のなか、企業の責任で健康調査を行わせることなどが重要です。また、国会の動きと連動して、村上市議はさらに市政の場でも取り上げていく予定です。

治療費の補助を



## 港湾 高速道路が企業誘致の推進力？（中津市）

中津をとりまく高速道路構想



釧路港よりはるかに小さいながら、ダイハツの車の出荷で急成長する中津港

中津市は、東九州自動車道の整備が進む中、港湾とタイアップでダイハツ自動車の工場誘致を成功させたこのことで、視察をする事になりました。しかし、ダイハツ自動車の進出は、高速道路や港湾というよりは、「広い土地」「労働力の確保」「アジア市場に近い」という利点を生かして北九州一帯ですすむ自動車工場の進出ブームの一環（トヨタは小倉・宮田・苅田に進出、日産は苅田、ダイハツは中津、久留米に進出）です。しかも、当初はエンジン工場も中津という声がありながら、労働力不足から久留米に変更になるなど、決して順風満帆というわけではないことも明らかになりました。